
七夕特別短編！

究極神団・零

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

七夕特別短編！

【Nコード】

N4292M

【作者名】

究極神団・零

【あらすじ】

七夕記念短編です。
ふざけすぎ注意です。

（前書き）

ろくに執筆もせずになにやっとなんじゃとかいうツツコミは無しで。
書きたかったんですよこれ。

でも真面目にやる気はいつさいがっさいありませんのでそういうのが嫌いな方は今すぐバックです。

其ではどうぞ。

今日は七月七日……そう、七夕の日。

織姫と彦星が年に一度だけ会えると伝えられている日。

そんな日には短冊に願いを書いて吊るすと願い叶うと言われている。

そんな七夕行事は、勿論ポケモン達の世界にもあります。

そして七夕と言えば……このポケモン。

「……遂にボクの出番だあーっ！」

星みたいな頭から吊り下げる三枚の短冊。小さな体に隠された目がある……。

千年に一度、七日間だけ目覚めると言われるポケモン。名はジラーチ。

今日は彼の出番です。

「さあ願いを叶えに行こうっ！」

皆は短冊にどんな願いを書いているのかな？
早速見てみましょう。

「てか作者さん。前書き長いよ」

うるさい。

私に話し掛けるんじゃない。

「でも返事してるよ?」

……では皆の願いを見に行きましょうか

「無視したよこの人!!」

てきとーに歩いて数秒、短冊を沢山吊るしてある大きな木に着きました。

なんの木なのか、何故木なのかはツツコミ禁止ですよ。ええ禁止ですとも。大事な事なので二回言いましたよ。

「おお、吊るしてるねえ」

確かに、沢山の短冊が吊られています。
その数は数え切れない程に。

「先ずはあ……コレだあ!」

何故か無駄にかっこよく短冊を選ぶジラーチ。全くの無意味。

「えつとなになに……『アイス食べた〜い』by某色違いのボー
マンド」……この人何時も数え切れない程食べてますヨネ？
作者さん」

だから私に聞くなというに。

「この人の願い叶えなくていいよね？　なんか叶えたらずっと叶え
なきゃいけない気がするんだけど……」

さあ次見てみようか。

「また無視？……まあいいや。次は……これだっ！」

自分で言っておきながら良いのかと思いつつ……何て書いてあるの
かな？

「『暇だ。byディアルガ』ちょ！時の神様が何言ってるのさ
……」

成る程。自分の空間にしか居られないからパルキアやギラティナに
も会いに行けないから暇なんだ。そうなんだよきつと。

「そればかりはボクにも無理だよ……。」

幾ら願いを叶えるポケモンと言えど、こういう類いの願いは叶えら
れないからね。

「てか作者さん……段々素に戻ってますよ？」

……あつ。

オホン、では気を取りなおして……次行ってみましょう……おお？
新たなポケモンが短冊を吊らしに……

「あれはカイリキーだね……。筋肉が此れでもかというぐらい暑苦しいね……。しかも光ってるし。」

ではあのカイリキーの願いでも見てみましょう。

「え？！ もう……。え〜っと……。『筋肉神マッスルーンに会わせ筋肉！ 筋肉センサーシヨンだあああ！ 筋肉筋肉！』」

……訳が分かりませんね。てか長いし。

「まず筋肉神マッスルーンって誰？！ そんな神様居るの？！ 会わせ筋肉って訳わかんないんだけど！ そして筋肉センサーシヨンって何？！ なんか嫌な予感しかないんだけど！」

何処まで筋肉好きなんだか……。底がしれませんが。筋肉センサーシヨンという謎の単語も気になりますし。

「もうやだ……。まともなのが無い……」

流石のジラーチも疲れてきたようです。

と言ってもまだ二つの願いしか見てませんけどね。

「他にあるのは『作者がさっさと次話を投稿するように』とか『バナナの皮で全て転びたくない』とか『願いは……無い』とか……
……。誰の願いか当ててみてね」

今言った中の最後の奴に告ぐ。ならば何故書いた。

願いが無いのなら無理矢理にでも作れ。
なんなら私が作ってやるうか。

「それはダメだよ作者さん……。」

分かってますよ。

だからこそキツイお灸をすえねばならんのだよ。

「だからダメだって！」

H A N A S E 。

私はもう決めたのだああ！！

「……なんか騒がしくないか？」

「気のせいでしょ？」

「……直ぐそこでなんか揉めてるんだが……」

「「何処だ（よ）??」「」

「……もついい」

………ん？

誰か来たようで。

「ホントだ……。あれはジュカインとエーフィとガブリアスだね。
ってこの組み合わせって……」

まあ気にするな。

「……ルングは何を短冊に書いたんだ？」

「シン……お前とおんなじ事だぞ。絶対な」

「……BLなの？ 貴方達。」

「「違うわ！！なんでそうなるんだよ！」」

「嘘に決まってるでしょ？ バカね二人共。」

「「お前なあ……」」

「さ、行きましょ？」

「レイのキャラが違うような……」

「短編だからか……？」

向こうは盛り上がってますなあ。

女の子一人に弄られる情けない男二人。修行を積みましよう。

「んじゃ早速見てみる？ あの三人の願い。」

いつの間に拝借したんだ。

「え〜っとお、ルングとシンって名前の人は『今よりもっと、ずっと、強くなりたい』だつてさ。」

やっともな願いだね。

「んでレイって人のが『兄が見付かりますように』だつて。」

行方不明の兄貴を捜してるのか。
いい話じゃないか。

「よ〜し♪後で叶えてあげよ〜っとなん？ さっきの短冊の隅っこになんか書いてある……。何々……。――（ドゴーン！）」

バズーカ砲の活躍により乙女の秘密は守られました。
あまりにも強引ですが今回は此処までにしたいと思います。

其では。

皆様の願いが叶う事を祈っています……

（後書き）

えー……

読んで頂いた通り……作者はコト八様『フューリング』よりジユカインのリング、ガブリアスのシン、エーフィのレイに特別ゲストとして出演して頂きました。

まあ真面目にやる気は全く無いんであんな事になってますけどねww

因みに私の願いは『文章力向上』と最近鼻の粘液が弱ってるのか鼻血がよく出るので『鼻血止まれ』ですww

貴方の願いは……なんですか？
叶うといいですね。

ではではww

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4292m/>

七夕特別短編！

2011年10月9日20時30分発行